

5類移行1カ月増加続く

新型コロナ専門家から警戒の声

新型コロナウイルスの感染症法の位置付けが「五類」に移行してから、八日

で一ヶ月が経過した。感染状況の集計も「全数把握」から「定点把握」になったが、三週連続で前週を上回る患者数が報告され、いまだ広がっているとみられる。状況が捉えにくくなつた一方でクラスター（感染者集団）が増えているとの報告もあり、専門家からは

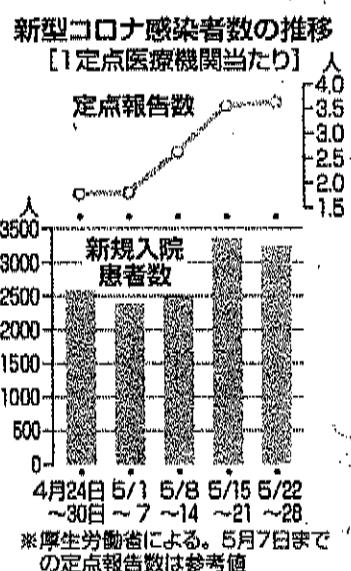
警戒の声が上がる。

松野博一官房長官は七日の記者会見で、「(五類移行後) 全国の医療機関から報告される患者数は緩やかな増加傾向にある。重層的に感染状況を注視したい」と述べた。

これまで都道府県などが毎日全数発表していた感染

者数は、全国約五千の医療機関による定点把握となり、公表も週一回となつた。厚生労働省が一日に発表した五類移行直前の人数は、全国約五千の医療機関による定点把握となり、公表も週一回となつた。厚生労働省が一日に発表した「医療機関当たりの感染者数は、全国で二・六三人。前週比で一・〇二倍と微増した。

厚労省が参考値として発表した「医療機関当たりの新規入院者数は、三週連続で二千人を超えた。インフルエンザなどほかの感染症も増えており、大型連休など



による行動の活発化と対策緩和が要因との見方が強い。

館田一博・東邦大教授（感染症学）は「定点把握になり、正確な感染動向が見えにくくなつたのは確かだ。把握できている感染者は氷山の一角に過ぎない」と強調。医療現場ではクラスターの増加もみられ、注意すべき状況などの見解を示す。

地域によるばらつきは大きいが、沖縄では定点当たりの報告数が十人を超えた。館田教授は「インフルエンザなら注意報レベル。そのような地域が広がっていふと、次の波につながる

恐れがある」と指摘。社会活動を元に戻すことは重要としつつ「各団ができる範囲で感染対策を心がけてほしい」と訴えた。

県は七日、新型コロナウイルスの五月二十九日～六月四日の発生動向を発表した。県内三十九カ所の定点医療機関から報告された感染者は百二十一人。一機関当たり二・一〇人で、前週（五月二十二～二十八日）の三・〇五人を上回った。

県によると、一機関当たりの感染者数は前週と比べてほぼ横ばい。越前市など二市二町を管轄する丹南保健所の五・六三人が最多。最少は勝山市と大野市を管轄する墨越保健所の一・二五人だった。年代別では、四十代が十九人で前週に比べて七人増加した。

県内 前週比ほぼ横ばい

（小林未歩）